

光化学オキシダントの測定結果（平成19年度）

光化学オキシダントは、窒素酸化物や炭化水素類が紫外線を受けて光化学反応を起こし、二次的に生成される酸化性物質で、光化学大気汚染（いわゆる光化学スモッグ）の原因物質とされ、その発生は気温、風向、風速、日射量等の気象条件に大きく左右されます。

平成19年度に、光化学オキシダントについて12測定局で測定した結果は、下表のとおりであり、いずれの測定局においても環境基準を達成できませんでした。

昼間（午前5時から午後8時まで）の1時間値の最高値が最も高かったのは、笠原測定局の0.154ppmでした。

なお、「岐阜県大気汚染対策要綱」に基づく光化学スモッグ予報の発令日数は3日（西濃・羽島地域2回、可茂地域1回、東濃西部地域2回）であり、光化学スモッグ注意報の発令日数は2日（岐阜地域1回、東濃西部地域2回）でした。

地域	測定局名	昼間測定日数 (日)	昼間測定時間 (時間)	昼間年平均値 (ppm)	昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた時 間数とその割合		昼間の1時間値が 0.06ppmを超えた日 数とその割合		昼間の 1時間値 の最高値 (ppm)	日最高 1時間値 の年平均 (ppm)	環境基準 の適否 適○否×	平成18年度	
					時間	%	日	%				昼間 年平均値 (ppm)	環境基準の 適否
岐阜	岐阜中央	366	5,412	0.030	354	6.5	76	20.8	0.115	0.047	×	0.029	×
	岐阜南部	361	5,320	0.029	360	6.8	79	21.9	0.113	0.046	×	0.030	×
	岐阜北部	366	5,444	0.028	228	4.2	53	14.5	0.102	0.043	×	0.029	×
	各務原	366	5,435	0.035	587	10.8	113	30.9	0.131	0.053	×	0.029	×
	平均			0.031				22.0				0.029	
西濃・羽島	羽島	366	5,471	0.032	514	9.4	105	28.7	0.133	0.051	×	0.030	×
	大垣中央	366	5,468	0.033	490	9.0	98	26.8	0.127	0.050	×	0.029	×
	大垣南部	366	5,464	0.034	546	10.0	108	29.5	0.136	0.052	×	0.030	×
	平均			0.033				28.3				0.030	
可茂	美濃加茂	366	5,454	0.034	653	12.0	121	33.1	0.120	0.054	×	0.029	×
東濃西部	笠原	366	5,436	0.033	729	13.4	127	34.7	0.154	0.054	×	0.033	×
恵那・中津川	中津川	360	5,369	0.033	739	13.8	129	35.8	0.126	0.055	×	0.028	×
飛騨	高山	366	5,467	0.032	401	7.3	76	20.8	0.110	0.047	×	0.030	×
	乗鞍	322	4,797	0.048	658	13.7	90	28.0	0.116	0.056	非適用	0.047	非適用
	県平均			0.032				27.0				0.030	

備考) 1 県地球環境課調べ

2 昼間は、午前5時から午後8時までを示す

3 環境基準に適合しているとは、1時間値が0.06ppm以下であることを示す

4 県平均に、乗鞍測定局は含まない

光化学スモッグ予報等発令状況

予報				注意報			
発令日	発令地域	時刻	発令時濃度 (ppm)	発令日	発令地域	時刻	発令時濃度 (ppm)
H19. 6. 27	東濃西部	14:00	0.110				
H19. 6. 28	西濃・羽島	13:00	0.104				
	東濃西部	13:00	0.112				
H19. 7. 25	西濃・羽島	15:00	0.110				
	可茂	15:00	0.105				
				H19. 7. 25	岐阜	15:00	0.120
					東濃西部	15:00	0.127
				H19. 9. 4	東濃西部	16:00	0.132